

第1回福島市文化振興審議会 会議録

◆日 時 令和6年2月26日（月） 午後1時30分～午後3時40分

◆場 所 福島市市民会館401号室

◆出席者 委 員：11名

鳴原明寿委員、穴戸路枝委員、齋藤幹夫委員、清野和也委員、村川友彦委員、
初澤敏生委員、根本和代委員、丹野義明委員、藤本菜月委員、高橋康委員、
須藤康子委員

事務局：8名

◆次 第

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 会長・副会長の選出（会長に初澤敏生委員、副会長に鳴原明寿委員を選出）
- 6 議事（議長：初澤会長）
 - （1）概要説明（事務局より説明）
 - （2）協議
- 7 その他
- 8 閉 会

◆概要説明に対する質疑応答・委員意見

【委員】

文化振興計画で規定する「目指す姿」と市総合計画の「文化芸術の振興」のページに記載されている「目指す姿」との関係はどのように考えているのか。

【事務局】

文化振興計画は総合計画にも紐づいているので、ある程度同じ方向を向きながら文化振興計画に合わせた目標を作っていけたらと思っている。

【委員】

総合計画に「目指す姿」が書かれているが、それとは別の「目指す姿」をこの計画で作っていくということか。

【事務局】

総合計画ではそれぞれ個別の項目ごとに5年後に到達したいと考える本市のあるべき状況や状態が記載されている。文化振興計画では、そこから大きく外れるわけではなく、総合計画の個別計画として「目指す姿」を定めていきたいと思っている。

総合計画の「目指す姿」は、策定時から5年後の令和7年度に目指す姿として策定している。文化振興計画の「目指す姿」を何年後に定めるかについては協議の必要はあるが、事務局としては概ねこれから10年後と考えている。総合計画とは期間が少しずれるので、総合計画に記載がある「目指す姿」からさらに

1歩進んだ、もう少し先の目指す姿を定めていきたいと考えている。これからの協議して決めることだが、事務局としてはもう少し端的に、キャッチーなイメージで「目指す姿」を策定してはどうかと考えている。

【委員】

総合計画に関しては随分縦割りだなという印象を持っていた。総合計画の基本方針3の重点施策「(5)豊かな文化芸術の振興と発信」に結び付くところだと思うが、「(8)福島らしい個性とにぎわいのあるまちづくり」「(9)移住・定住に向けた支援・受け入れ体制の強化」「(10)市民総活躍と市民共創のまちづくり」「(11)新たな施策への挑戦と発信による都市ブランド力の向上」も全部文化と関わってくる。「文化」を幅広く捉えていったらどうなのか。我々が考える「文化」を元にして考えてもいい気もする。特に今度は文化芸術基本法でもっと地域振興などと結びつけた文化が必要。新しい視点からも、どんどん議論をしていいのではないかと。むしろ次の総合計画がそれを受けて変わってくるかもしれない。

【委員】

「福島の特色」「文化の特色」をどのようにとらえるかで大切なのは歴史だと思う。「歴史文化」「文化遺産」を見ることで、「福島の特色」が出てくるのではないかと。例えば、佐藤氏の本拠地であった飯坂には大鳥城や医王寺などの関連する施設がある。能に義経と弁慶が佐藤兄弟の母親に2人の死にざまを語るという「撰待」という演目があるがそれもまとめて飯坂の文化としてとらえる。1つ1つの史跡などではなくいろいろな組み合わせを考えていくことが必要なのではないかと思う。

また、信夫山も信夫山にある何々だけではなく、自然や現代までの遺跡などを丸ごと1つの文化ととらえることが福島市の特色に関わってくるのではないかと考えている。

【委員】

福島市に関する文化の現状把握が文化の特色を知る上で最初に必要ではないかと思う。事務局では、その辺りの資料などはどの程度把握しているのか。

【事務局】

文化振興条例制定の際はLINEアンケートを実施し、「あなたが思う福島らしい文化にはどのようなものがありますか」の質問に対する回答を参考に前文を制定した。文化振興計画の策定にあたっては、条例制定時のLINEアンケートやパブリック・コメントのご意見から皆様にご検討いただくためのたたき台となる福島らしい文化に関する説明を考えていきたい。

【委員】

観光面でいうと吾妻山の麓に広がる五葉松が最近とても注目を浴びている。かなり強く情報発信をしている方がいて、海外からわざわざ人が来る、もしくはこちらから海外に出向いで指導してくると聞いている。市の観光部署でも「吾妻五葉松盆栽ジャック」として市内各所に小さな盆栽を置いて、興味を持ってもらう、広く知ってもらうための取り組みをしている。

立子山の刀匠の藤安氏のもとで刀鍛冶体験ができるプランを観光コンベンション協会と福島交通観光で主に外国人向けに企画した。実際にその文化活動を通じて、福島市にお金を落としていただくための取り組みを提案していければ。

【委員】

刀鍛冶が福島市にいるというのは本当に素晴らしいこと。観光として振興するためには拠点になるところがないとだめだが福島市にはそれがない。県立美術館やじょーもぴあ、民家園などがあるが拠点に

なってない。都市計画でもそうだが、福島市の核になるものがないと思う。そういう拠点が無いといういろいろなことをやるには不便になる。博物館などがすぐにできるわけではないが、どのような形で拠点にするかということを考えていかなければならない。

【委員】

市文化団体連絡協議会には香道の団体が加盟している。福島市として特色があるのではないかと考えている。県文化振興計画では「文化」のなかに香道が入っている。

【委員】

このような計画を作るにあたって根本で考える「福島らしさ」は、なぜこれらがここから生まれたのかという歴史から発生しているものだと思う。子どもたちも福島市のことをそこまで知らない。私たちは専門分野でしか発言ができないと思うので、ぜひ事務局の方には改めてそもそも何でというところを突き詰めて、たたき台を作っただけだと思った。

【委員】

おそらく福島市にどんな文化があるのかという棚卸しがきちんとできてないところだと思うが、文化の棚卸しをすること自体、数年計画でやらなければいけないこと。そういったことをきちんと調査していくことを計画の中に入れて方がいいのではという印象をもった。

◆協議「福島市が目指す文化のまちの姿について」の委員意見

福島市は他に比べると歴史、建物も含めて、古いものを大切にしなかった歴史を感じている。碓川を中心として、県立美術館・図書館、花の写真館、県文化センター、音楽堂、古閑裕而記念館など様々な文化の姿が見られ、山全体では、信仰の山寺、お寺の数も多く、学び家の通日も幾つもあることはすばらしい。他にはない都市だと感じている。信夫山があることが福島市の特徴であると思っている。もっと古いものを発掘しながら、新しいものを考えていくということ。

以前は公会堂があり、県文化センターの大ホール・小ホール、音楽堂、福島テルサという音楽活動に使えるホールがたくさんあった。しかし、公会堂が使えなくなり、文化センターもこれから2年間工事のために使えず、会場の取り合いになって音楽団体が発表会を開催できない状況が続いている。駅前に作るホールが音楽活動にも使えるのではと思い期待を寄せている。美術団体についても同じなので、やはりある程度使えるところがあるといいと思う。

ふれあい歴史館がなくなり福島市の昔の姿をどこで見たらいいのかという思いがある。今後、市では駅前の施設や消防署の建設などお金がかかることが多いが、文化活動の拠点を作ることができればいいと思っている。

福島市は文化活動をするためのきちんとした拠点が無い。拠点は観光のためにも必要だと思う。拠点になる設備のある施設が欲しい。話にでていたが碓川沿いを文化ゾーンとしてとらえて関連で何かすることもできるのではと思う。

今までの歴史、文化もとても大切にしていってほしいものだが、将来を見据えて考えた時にはデジタル化・

DXは外せないと思う。

コロナ禍をとおして文化が生活に大切だと改めて思った。コロナに限定せず、新型コロナウイルスを想定し幅広く将来をとらえて計画を策定していく必要があると感じた。

福島市の小学校の学習発表会で白虎隊の劇をやっていた。福島市の小学校で文化を醸成するなら白虎隊ではないものもあるのではと思った。やはり教育分野から全然浸透していないのだと親として感じている。

金沢駅では降りた瞬間からとても文化の匂いを感じる。それはきっとそのまちの雰囲気などにも関係するのだろうと思う。目指すまちを考えたときには、今回の振興計画で、何か1つの核となるキャッチフレーズができて、そこをもとにしたまちづくりができると金沢のようなまちができるのではないかと。「福島市に住んでいる」と言うと「いいですね」と言われるようなまちになっていくといいと思う。

計画を立てるにあたりいろいろ掘り起こすとかなりの時間がかかる。こんな短い時間でできるのかと正直感じている。

福島市は、盆地の真ん中に信夫山があり、信夫三山として信仰の山になっているが、行政では、個人の所有物である花見山に重点を置いていることを少し不思議に感じている。もっと信夫山を大事にするべき。信夫山には個人の所有物がたくさんあるためダメなのだといふ以前聞いたことがあるが、ダメだからと協力を得る努力をしてこなかったということもある。わらじまつりは信夫山の暁まირが根本の歴史になっているのに暁まირを大事にしていないように思う。連動させる福島の祭りの在り方が大事だと思う。

医王寺には佐藤兄弟の母親の悲しみのため、椿が咲かずにつぼみのまま全部落ちていくという話があるが信夫山でもそういう話がある。掘り起こせば、他にもたくさん出てくると思う。

以前、じょーもびあ行こうとしたが、標識が全くないため道がわからず聞きながら行った。そのようなPRが上手くできていない、連動してないというところもある。市の観光と歴史の部署が横につながって上手にやっていけば、かなり福島市の歴史を掘り起こすことができるのではないかと。福島市には信夫山、吾妻山があり、吾妻山には種蒔きウサギがあるがPRができていない。バラバラという感じがある。

以前、西口観光案内所では歴史について知りたい方にはふれあい歴史館を案内していた。そのような施設が駅周辺にあると情報発信としては便利なのではと感じる。

目指す文化のまちの姿としては、五葉松や刀鍛冶、果物、花見山などを目的に市外、県外、海外からお客様に来ていただいて楽しんでもらい、お金を落としてもらうことで地元の文化が発展するような形に持っていければいいと思う。

福島市中心地のイベントや歴史の情報が届いてこない。うまく発信できていないと感じる。県内の宿場町をつなぐ御朱印イベントがスタートしたがイベントを知ってもらえるように取り組みを続けていくことが必要だと思う。

これから30年後を考えたときに、福島テルサも築60年、音楽堂築70年、県文化センター築80年と

なるが公共施設は基本的に築 50 年が限度だといわれる。駅前に建設予定の施設が、コンベンションホールになるか劇場になるのか二択で検討しているという報道もあったが、20~30 年後には市内に文化活動の拠点となる施設がなくなってしまうのではないかと懸念としており、文化振興を考えていく上で、本当に危惧される状況ではないかと思っている。他自治体の文化振興計画には劇場法も絡めているものもあるが、今日の案ではあまり触れられていないのが気になった。

目指す文化のまちの姿は、子どもたちが「福島市ってこれがあるよ」と胸を張っていえるまち、そういう文化があるということが大事なのではないかと思っている。世良修蔵の話や移民の話、飯野町には高野広八という日本で初めてパスポートをとり海外巡業をした芸人がいた。現代でも、和合亮一さんや佐藤 B 作さんが福島市出身。小説の舞台もたくさんあり、一つ一つとても豊かな文化があるので、それを子どもたちにもきちんと伝えていくことが必要ではないかと思っている。観光につなげることもとても大事だが、市民が何も知らないという状況ではもう一度来ようとは絶対にならないので、「実はここも素敵だよ」といえる文化を広げていくことが必要。

ある会議で福島市は本当に文化の香りがしない、箱物もない、若い文化の担い手も数少ない、今頑張っているのは中高年だというような話をしてきてしまった。私たちが知らない福島市の多様な文化をまとめて、それを市内外に発信することが必要なのではないかと思っている。今まですごく辺鄙なところだったのに外国から人が来るとの報告もある。福島市の歴史や文化がわかるような拠点を中合の跡地に作ればよいのではと思った。駅前東口のコンベンション施設は、なにか特徴があるものでなければ作る意味がないのではというような意見が市民からたくさんあった。小さくてもいいから有意義ななにか発信できるような建物をぜひ作っていただいて、文化の香りがする福島駅前にしていただきたいと思った。

以前、福島市で産業誘致に関わったことがあるが、工場を進出させても文化と教養がダメなまちには従業員が行きたがらないため、市では東京などから来る企業の関係者に対して工業団地のほかに信夫山や美術館を案内すると聞いた。

福島市にはたくさんの文化があるが、それがきちんと認識されていない。そこをしっかりと見つめなおすことが第一歩ではないかという意見が多かったと思う。

映画・漫画などの現在文化も地域おこしをするために非常に重要である。聖地巡礼などが非常に重要なところで、各市町村でこぞってやっているが、福島市ももっと深掘りしてやっていけば、大きな資源となってくるのではないかと思う。福島らしい文化については、これまで伝わってきた文化の上に立ちながら、新たに付け加えるものが何なのかというようなことなども考えていく必要がある。

以前、NPO 活動で福島市の路上でストリートミュージシャンの演奏をしたところ、苦情が来て 1 回で終わったが自治体によっては歓迎される。おそらくこれは文化にとどまらず、まちづくりと結びつけて文化の香りがするようなまちを作っていくことだと思う。今回の計画は、それに向けて歩み出すにはどうしたらいいのかというところに向けて、踏み出すようなものにできたらいいと考えている。